

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	妹尾達彦		
NAME	Seo Tatsuhiko		

1. 研究課題

（和文）アフロ・ユーラシア大陸の比較都市史研究

（英文）Comparative Urban History of Afro-Eurasian Continent

2. 研究期間

2年間（2019・2020年度）

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）1. 本研究の背景

21世紀に入り、人類の大半の人口が都市に居住する「都市の千年紀 Urban Millennium」の時代が訪れている。都市をめぐる問題は、人類の未来を左右する問題になってきたのである。都市史研究の今日的意義は、このような都市の時代を生きるための歴史的経験の活用にあ資することにある。

2. 本研究の目的

本研究は、アフロ・ユーラシア大陸の都市史を比較研究することで、人類の直面する都市問題について新たな視角から分析をほどこすものである。比較都市史の研究を進めることによって、これから長い都市の時代を生きざるを得ない人類が、よりよき未来をつくるための思考の基礎を提供できるように努力したい。

3. 研究計画・内容

都市史に示される人類の歴史の特色は、都市と交通、さらには都市をかこむ環境という要素の分析なくして不可能である。本研究は、前近代から近代にかけての人類の都市史を、アフロ・ユーラシア大陸の環境と交通の変遷を主軸に考察する。その際、各地域の都市の歴史を比較しながら、都市史の範型を抽出し、人類の未来を展望してみたい。

4. 研究成果

アフロ・ユーラシア大陸の都市史は、生態環境の境域をつつみこむ都市網を舞台に展開し、生態環境の境域は、農業地域と遊牧地域の境界地域から、沿海地帯を媒介とする内陸と海域をつつみこむ都市網に移行する。個人の人権と尊厳を普遍原理とする近代社会は、この移行にともない出現する、という仮説を提示することができた。人類の未来は、環境と都市の共存にこそ存在するだろう。

(英文)

Humanity has entered the urban millennium in the 21st century. The majority of the world's people live in cities. Cities are the future for humanity. The history of cities has become one of the most important social and human sciences. This research is a comparative studies of the urban history in Afro-Eurasia in the urban millennium.